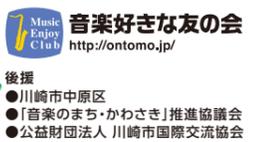


Table listing various support shops (サポーター) categorized by location (e.g., 元住吉西口, 元住吉東口, 武蔵小杉近郊) and listing their names, addresses, and phone numbers.



副島雄二 (そえじまゆうじ): ベース奏者
1978年東京出身。ウッドベースにはじめて触れたのは12歳。中高はオーケストラ、大学ではビッグバンド中心の大学生活を送る。

2024年5月12日(日)の音友レコード倶楽部
レコードコンサートのプログラムは Light music & Jazz Date 合同開催
「ジャズファンの集い」と「持参レコード/CDを楽しむ集い」
■ 国際交流センター・レセプションルーム
■ 13:15開場/13:30開演
■ 参加費: ¥1,500 (高校生以下 ¥500) ※詳しくは03面をご覧ください。

連載01 島倉学があなたに贈るミュージカルの世界へ
ミュージカル鑑賞の基礎知識
Shimakura Manabu
クロスオーバー歌手 島倉学
16世紀末のルネサンス期にイタリアで生まれたのが、歌と音楽で進んでいく「オペラ(歌劇)」という演劇です。

音友レコード倶楽部PR動画!
「音友レコード倶楽部」をわかりやすく説明したPR動画を是非ご覧ください。

島倉学ミュージックスクール
驚くほど歌い方が上達する「島倉学メソッド」
歌が人生を変える 音楽は決して貴方を裏切らない

島倉学ミュージックスクール
プロ志望専門ヴォイス・トレーニング
30分無料体験レッスン実施中!
【レッスンスタジオ】元住吉西口 徒歩5分
島倉音楽スタジオ
〒211-0025 神奈川県川崎市中原区木月3-35-1 ART FLATS B1F(106F)

川崎市国際交流センター
外国人のための就職活動セミナー
●日時: 2024年5月18日(土曜日)10:00~12:00
●会場: 川崎市国際交流センター 2F 団体活動ルーム
●講師: 方貞華(ほう ていか)(宇賢教育学院院长)
●対象: 外国人学生・外国につながる一般人
●定員: 20名(先着順)
●料金: 無料
●内容: 就職活動の基礎知識と流れ、マナー、面接の実践とQ&A

川崎市生涯学習プラザ
第136回 ランチタイム・ロビーコンサート
出演: Ensemble le fleuve(アンサンブル ルフループ)
ヴァイオリン: 五味俊哉 吉本彩子
ヴィオラ: 鈴木真理恵
チェロ: 池田信

音楽好きな友の会(音友会)
5月生まれのミュージシャン、スティーヴ・ウィンウッド
1948年5月12日はスティーヴ・ウィンウッドの誕生日。
イギリス・バーミンガム出身のブルー・アイド・ソウル、ロック・ミュージシャンで今年76歳を迎える。
以前、音友レコード倶楽部で紹介したトラフィックというイギリスのロックグループの中心メンバーであった。
黒人音楽に強い影響を受けており、シンガー、キーボード以外にギター、ベース、ドラムも演奏できるマルチプレイヤーである。

特別寄稿07

ムールドラマスの女性講師コラム
~海外から日本へドラム人生転機編~

Muhr Rumi
ムール 瑠美

前回、初めてドラムを教えることになった話からです。

入念にいろんなパターンを想定して、いざレッスンに行くとその日は3名ほどの生徒さんがいました。

二人は小学生3年生くらいの子、一人は牧師さんでした。

20年くらい前のことなのに不思議と初めての子の顔も名前もはっきり覚えてます。メガネをかけた金髪の男の子ダニエルくん。可愛かった!

やはり、日本語で教えるならまだしもスウェーデン語で説明するのは大変でしたが30分ずつのレッスンは思ったよりも楽しく、あっという間に終わりました。

未知の体験だった1日臨時講師はとて面白い経験になりました。

後日、ドラム専門学校から連絡が来ました。小学生の男の子が私のレッスンをもっと取りたいと希望を出してきたとのこと。私はとても嬉しくて仕方ありませんでした。

牧師さんも私の教えたエクササイズが楽しいとコメントをくれました。

ここからプレイヤーとしてだけではなくドラムをもっと教えてみたい!教えるという道も楽しそうだと思い始めたのでした。

今思えばこのきっかけがなければドラム講師という仕事をしていなかったかもしれません。

そうこうしているうちに、住んでいた近所の治安が悪く日々の生活にストレスがたまってしまったため引っ越しをすることに。しばらく空き部屋を探しましたが全然見つからず。ヨーテボリというスウェーデン第二の都市では希望の部屋が見つかるまで約4年待ちとのこと、...そんなに待てない!首都ストックホルムでは10年待ちもあるくらいだそうです。

そこで思い切って、一度日本に住んでみようかということになりました。せっかくうまくいっていたバンドを辞めることになるので苦渋の選択でしたが流石に遠すぎて続けることができないので諦めることに。メンバーに申



し訳ない気持ちでいっぱいでした。

ちなみに写真は世界で一番臭い食べ物と言われている「シュールストレミング」。

せっかくスウェーデンにいたのだから一度は食べておかない!と義母が用意してくれました。

缶詰を開ける時は必ず屋外で手袋をしておかないといけません。味は臭すぎてよく分かりませんでした(苦笑)

そして2007年、日本に引越しました。海外に5年くらい住んでいたの、最初は少し浦島太郎的な感覚でした。

今回も読んでいただきありがとうございます。次回は、「日本でドラム人生再スタート編」です。

連載14 脱線ニューヨーク滞在記
前号からの続き

Demura Katsuki
出村 克明

毎日のように閑と時間はたっぷり、気ままの向くまま風まかせままならないのは金と秋空なんてフーテンの寅さん取りで囃していると、そこは葛飾。柴又、帝釈天ならぬニューヨーク、マンハッタン、ピレージの映画館、寅さんの郷愁が呼び込んだのか「東京物語」と看板があり原節子のポスターが入りました。観ました。たいへ面白かったです。初めて「小津安二郎」監督の映画を観ました。定かには彼の名前すら知らなかったのですが、それ以後大ファンになり無声映画も含め色々観ました。笠智 衆、杉村 春子をはじめ味のある俳優らを起用し、彼らが小津映画を作り上げてる感じもありました。戦後間もない1953年に作られた「東京物語」をピレージで、幸運でした。他の小津作品も淡々とした映像の中に戦後の情景もあり、僕の幼少の頃とも重なり合う背景で変哲も無い日常を物語に仕立て上げてます。ある種ポップアートのコンセプトにも繋がり、それでピレージでもと。又、60年代ころの外国映画、特にイタリア映画の中にもなにか繋がる場所があるのは。共に第二次世界大戦での敗戦国である事が一因ですかね。

た、食事メニューもけっこう有りキャシュ オン テリパリーでした。マッコイ・タイナーのライブでした。コルトレーンのバンドを離れてから6年くらい経った頃でジョー・ヘンダーソンやソニー・ロリンズ等と共演していた時期でしたが、その日はソロでマイフェリットシングスなどコルトレーンとゆかりのある曲を彼に捧げるかの様に熱演し、琴(韓国の伽耶琴カヤグムかも)の演奏もお披露しました。そんな彼も数年前にこの世を去りました。

20年程前骨董通りに在った東京ブルーノートにコンガとトランペットのジェリー・ゴンザレスや始めて間もなかったコンガのジョバンニ・イダルゴ等を引き連れてラテンJAZZバンドで来た時を思い出します。

マッコイがラテンをと思い行きました。ラテンのフリーパーにマッコイのJAZZがコラボしたライブでした。クールなラテン。マッコイのラテンジャズよかったです。

僕は子供の時から動物の事が異常に好きで、小学校4.5年の頃、後楽園競輪場特設会場(競輪場は1973年休止)で開催された世界動物博覧会には最初一人で行ってアフリカゾウ(アフリカゾウが初めて日本に来た時と思う)を見たのに興奮し日を改めて大好きだった理科の神山鈴子先生を連れ出して行きました。僕の初デートだったかも。そして写真を撮って解説した動物辞典を作るほどでした。

なので当然セントラルパークの動物園へ行きました。特筆はマンドリル、他の動物園でも見ますが、このマンドリルは大柄で顔は勿論、腰から尻の紫色...絵にも画けない美しさで、もしマンドリルユニバースがあるならば優勝でしょう。ゴリラ、これも大柄で立ち上がった姿はキングコングを彷彿させ、床掃除の溜まり水を手ですく見物人にひっかけてキャーキャー言わしてました。虎はアフガニスタン カブー

パーカッション奏者
コンセプチュアルアーティスト
現代アートでは空気、無を楕包して送る
エメールアドレスを展開している。

ルの動物園で見たのが最高なのですが、セントラルパークのは餌やりのおじさん(曲者の感じ)が檻の鉄格子の間隔いっぱい分厚い肉の塊を差し入れると待ってたとばかり唸りと共に駆け寄り前足から剥き出した鋭い爪で肉塊を引き寄せ牙をむき、あっという間に平らげてしまいました。間近で見たので迫力ありました。ニューヨークの動物園だからこそかもしれません。後日又行きました。

次号へ ポヘーバ



▲東京物語



▲チャップリンの独裁者



▲McCoy TYNER / ENLIGHTENMENT



▲マンドリル

音友レコード倶楽部Report Jazz Date (ジャズファンの集い) 2024年3月コンサート

戦後の人気トランペッター・ビッグバンド、レイ・アンソニー楽団を聴く

Ohba Akihiro

DJ担当:大場 アキヒロ

3月の休日の午後、この日のレコード倶楽部は久々に国際交流センターのホールでの開催となりました。この日は102歳のトランペッター奏者/バンドリーダー、レイ・アンソニー楽団を筆者のDJで特集しました。レイ・アンソニーは1922年生まれのトランペッター奏者、バンドリーダー、アレンジャー、作曲家、俳優です。1940~41年、オリジナル・グレン・ミラー楽団に在籍し、戦後、自己のビッグバンドを結成しました。1950年代にはJazzyなビッグバンド演奏やダンサブルな演奏のレコードを次々にリリースし人気バンドとなりました。あわせて自己のテレビ番組を持ち、ルックスの良さから映画にも度々出演しました。2024年現在、102歳で健在でおられます。彼の1950年代後半~'60年代前半のレコードアルバムからその一旦を聴いていただきました。まずかつてのボス、グレン・ミラーを忍んでミラー楽団のヒッ

ト曲集「I remember Glenn Miller」(1954.写真①)からお馴染み「ムーンライト・セレナーデ」。ミラー楽団のオリジナル・アレンジに準拠しつつ、後半、アンソニーのトランペッターが絡む演奏でオリジナルの再演ではない、アンソニー楽団の特徴を生かした演奏。

「Plays Dream Dancing」(1961.写真②)はアンソニー楽団でヒットしたシリーズで、「Dream Dancing」の名が付くアルバムが数枚あります。本アルバムはこのシリーズの最初の1枚で、タイトルとおりダンス向けのアルバムながら上品なアレンジで、この中からアルバムタイトル曲「ドリーム・ダンシング」を。ジャケットデザインもお金をかけたゴージャスなアルバム。

「Jam Session At The Tower」(1956.写真③)はアンソニー楽団で最もJazzyなアルバム。バンドのアンサンブルをバックにRay Anthony (tp), Ray Sims (tb), Med Flory

(as), Georgie Auld (ts), Leo Anthony (bs)がソロを廻します。このアルバムからお馴染み「パーティード」を鑑賞。②とは対極の演奏。

最後は番外編ともいえるべき、日本での録音を紹介しました。昭和42年(1967)に小編成バンドで来日した際、稲垣次郎(ts)、秋満義孝(p)、原田政長(b)ら日本のジャズミュージシャンと日本の歌をレコーディングしました。「RAY ANTHONY in Japan」(写真④)より石原裕次郎の唄で知られている「夜霧よ今夜も有難う」。上記を含め、全10曲を聴いていただきました。

元住吉ミュージック・フェスティバル(MMF)を2週間後に控えたこの日、MMF当日にレコード倶楽部のデモンストレーションをこのホールで予定していることもあり、この日のレコード倶楽部は調度良いリハーサルにもなりました。



▲①I remember Glenn Miller / Ray Anthony



▲②Plays Dream Dancing / Ray Anthony



▲③Jam Session At The Tower / Ray Anthony



▲④RAY ANTHONY in JAPAN / Ray Anthony

音友レコード倶楽部Report 持ち寄りタイム (持参レコード/CDを楽しむ集い) 2024年3月コンサート

3月のちょっと肌寒い休日にヴォーカルアルバムで盛り上がり

Ohba Akihiro

DJ担当:大場 アキヒロ

DJタイムに引き続き行われた持ち寄りタイムでは参加の皆さんより各種ヴォーカルアルバムが集まり、さながら新旧・男女ヴォーカル特集となりました。

まず今回初参加の方より、札幌のライブハウスのオーナーでもある黒岩静枝さんの自主制作盤CD「MAKE ALL MY DREAMS COME TRUE, DAY BY DAY」(1988.写真①)の紹介があり、「ルート66」を鑑賞しました。

黒岩さんは若い頃ベトナム米軍キャンプめぐりをされ、その苦労が彼女の歌をソウルフルなものにしていると感じました。続いて同じ方よりご自身が大好きであると仰るナット・キング・コールより1963年の来日時、東京赤坂のナイトクラブ「ニュー・ラテン・クォーター」でのライブCD「Live at NewLatinQuarter」(写真②)より日本語で唄う「ラブ・イズ・ア・メニー・スプレンドード・シング(慕情)」を紹介いただきました。くしくもこの時、発行中のMマガジン4月号にてこの「ニュー・ラテン・クォーター」でのライブCDについて特別寄稿で筆者がコラムを執筆させていただいており、時宜を得た鑑賞となりました。

日本でも人気があり一時期、日本に移住したこともあるヘレン・メリルの「parole e musica(邦題:ローマのナイト・クラブで)」(1960.写真③)より「ナイト・アンド・デイ」。ヨーロッパを巡っている時にイタリアでレコーディングされ、各曲が始まる前にイタリア語に訳されたその曲の歌詞が朗読さ

れるという風変わりなアルバム。イタリアのミュージシャンをバックにほぼストレートに唄いながらも、彼女の「ため息」が感じられる好盤。

フレンチ・ポップスの旗手のひとり、クレモンティエの「ils et elle」(1994.写真④)よりフランス・レイの「男と女」。彼女の「En Prive」 「Long Courier」に続く、旅情3部作といわれる3作品目。彼女のウイスパー・ヴォイスが心地良い。

その他、テルマ・ヒューストンの「I've Got the Music in Me」、憂歌団のリードヴォーカル木村充輝の「KIMURA SINGS Vol.1 MOON CALL」、クロティエヌ・ロンジェの「Run Wild, Run Free」など、男女ヴォーカルをたっぷり堪能した休日の午後でした。



▲①MAKE ALL MY DREAMS COME TRUE, DAY BY DAY / 黒岩静枝



▲②Live at NewLatinQuarter / Nat King Cole



▲③parole e musica / Helen Merrill



▲④ils et elle / Clementine

連載90 「くじら座」日記
応援

Makino Kento

シンガーソングライター 牧野 憲人

「明るい人」と一緒にいるのは楽しい。難しい言葉で表現する必要もなく、ただ素直に楽しいと思える時間がそこにある。無邪気に人を応援することができ、優しさをみせることができる人と接すると、僕は心の底から尊敬を感じる。

物事の成功には自分の才覚や努力、工夫が必要だが、実は「周囲にいる人」という環境条件も同じくらいに重要だ。どんな人にも浮き沈みはあるが、そもそも浮くためには周囲のサポートが必要であるし、沈んでしまったときには自分の力だけでは上がってこれないだろう。ただ、ここにも無情な現実があるのも事実だ。

先日、地元のスポーツチームの試合を観戦した。チームは惜しくも敗退してしまい、周囲の観客からはため息が漏れていた。「もう観にくるのやめよ

う、そんな声すら漏れ聞こえていた。人は、本当に応援が必要ときに限って「応援したくなる」ものだ。勝ち続ける強い人を応援したいものであり、弱者は見放されてしまいがちだ。今、本当に応援が必要なのはどちらなのだろうか。そして、こんなときに「明るい人」がいれば、どれほど救われる

ことだろうか。路上で歌うミュージシャン。観客は僕だけだ。彼には応援が必要なのか、それとも彼自身が僕を応援しているのか。暗い空の下、雑踏にかき消されるような歌声は、ろうそくのようにほんの少しの明るさを見せていた。



連載72 Course: Addicted to Guitar
コードのポジションでオブリを弾く A型 ブルースロックピン芸人 永瀬 晋

Nagase Susumu

いつもお世話になっております。今月もギターを始めたばかりの方への攻略コラムをお送りしていきたいと思っております。前回から新しく「オブリガード」の内容に突入しましたが、チェックしていただけたでしょうか(笑)。文章だけでは音のイメージは難しいと思いますので是非楽器を持ちながら見ていただくのを勧めいたします!早速ですが、今回はCAGEDのA型で行っていきましょう。このA型のアプローチはリズム&ブルース系の音楽でよく使われますね。ブルージーなフレースのイメージで、ジミ・ヘンドリックスの「Little Wing」を思い浮か

べていただくとも良いかもしれません。というわけで譜例です。今回使うコードはA型のCですね。注意点として左手のポジションが通常のA型のCとは大きく変わりますが、譜例3拍目から2, 3, 4弦を押さえる指を人差し指セーハに切り替えます。そこから余った指で2弦(4度)、3弦(2度)、4弦(6度)



ソウリーヴ・ミュージック・スクール SouleaveMusic School http://souleave-music.com/ 元住吉駅徒歩3分、武蔵小杉駅徒歩13分 チケット制 音楽教室 Tel 044-750-8992 レッスンは8:00~22:00開始迄、詳細は要連絡

MOTTON CLUB 全国のミュージシャン、そして音楽活動に関わる人をネットワークしたい。演奏の場を創り、ライブと楽曲の発信活動を後押しが目的です。元住吉から世界に向けて配信しています。登録アーティスト募集中!! 演奏者の方々で「モットンクラブ」から配信希望の演奏動画を募集しています。(近郊で企画、運営可能なスタッフも募集中)